

病害虫防除所情報 第1号

令和4年5月18日
山梨県病害虫防除所

【ブドウべと病の防除対策について】

[発生状況及び今後の見通し]

1. 5月中旬の巡回調査では、一部のほ場で欧州系品種を中心に葉や花穂においてべと病の発生が確認された（図1、2）。また、各地区の病害虫防除員からの報告でも、べと病の発生が報告されている。
2. 気象庁5月12日発表の1か月予報（5月14日～6月13日までの天候見通し）によると、1週目の気温は、北からの冷涼な空気の影響を受けやすいため平年並か低く、向こう1か月の気温及び降水量はほぼ平年並の見込みである。
3. 曇雨天や低温が続くと感染に好適な条件となり、花穂・果房や葉への感染が助長される。その後、多発する傾向があるため、以下の防除対策を徹底する。

[防除対策]

1. 管理作業と合わせて発病の有無を確認する。発病した葉や花穂は伝染源となるため、見つけ次第取り除き、ほ場から持ち出して処分する。
2. 防除暦に従い、散布間隔を10日以内とし定期的防除を徹底する。散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を延期せず降雨前に散布する。また、薬液散布量を遵守する。
3. 発病初期には、オロンディスウルトラ SC 2,000 倍またはジャストフィットフロアブル 5,000 倍をかけむらのないよう丁寧に散布する。ただし、耐性菌の発生を防ぐため年1回の使用とする。また、周辺に立木類がある場合は飛散しないように注意する。



図1 葉表での症状（発病初期）
葉色が薄くにじんでみえる。



図2 葉裏での症状
白粉状の病斑があらわれる。